

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1870200035		
法人名	(株)かくた		
事業所名	敦賀ケアセンターかくた グループホーム「あずさ」		
所在地	福井県敦賀市新松島町8番30号		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JinyosyoCd=1870200035-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JinyosyoCd=1870200035-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年9月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日の生活のなかにおいて、掃除、食器洗い・拭き・調理・シーツ交換・入浴準備など自宅で生活していたころの様に、自分たちで出来ることは積極的に活動してもらう事を意識し、職員と明るくコミュニケーションをとりつつ、生活リハビリを取り入れ、自分でできることを維持するようにしている。・近くに公園・スーパーなどが整備されていて、自然の環境に恵まれている。地域の祭、ふれあいサロンに参加し、また一方で施設行事に地域の方を招待し、利用者、職員と一緒に食事をするなどの活動をしている。運営推進会議を活用し、情報の発信を行っている。地域住民の外出時には憩いの一時を持ってもらえるよう、日傘・玄関先にベンチ等も設置し、地域の方が古新聞などを持ってきてくれることもあり、地域の方々との交流にも積極的な活動を展開している

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは地域との関わりを大切に、夏祭りの参加や踊りやカラオケなどのボランティアの来訪、地域の方も招いて蕎麦打ちやお茶会等を行い多くの交流を楽しんでおり、コロナ禍においても区長や民生委員から連絡があり情報交換をしたり、ふれあいサロンが再開され参加したり文化祭に出展する作品作りを行い地域交流を続けています。職員は家庭的な雰囲気作りや自立支援に取り組み、日常的に家事などのできる事に携わってもらったり散歩やドライブ等に出かけ楽しんでもらう他、ミーティングで業務改善やヒヤリハット事例を検討しながらサービス向上に活かしています。また、日々の関わりの中で得られた楽しんでいたりしたことや気付き等を記録に残すように様式の変更にも取り組み、利用者の思いや意向を汲み取り職員間で共有し介護計画やケアに反映しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・運営理念を社内に掲示するとともに、毎月実施するミーティングにおいて参加者全員で唱和し、理念の共有を図っている。利用者の自己決定に基づいたケアが出来る様、常に職員と話し合っている	運営理念は家庭的な雰囲気や自立支援、地域社会との連携を大切に考えられ、パンフレットに掲載しフロア内に掲示し常に目にするようにしたり、会議録のレジュメにも載せ職員に周知し意識してケアに当たるよう取り組んでいます。毎年ホーム全体や個々の職員が理念を基に目標を作成し、半年ごとに振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ふれあいサロンや夏祭りなど、地域の行事には必ず参加するとともに、事業所主催の感謝の集い等に地域の方々も沢山参加してもらえるよう、地域とのつながりを計っている。	町内会に加入しコロナ禍にも区長や民生委員から連絡があり情報交換をしています。コロナ禍前には夏祭りの参加や踊りやカラオケなどのボランティアの来訪、地域の方も招いて蕎麦打ちやお茶会等を行い多くの交流を楽しんでいました。コロナ禍ではふれあいサロンが再開し参加したり、文化祭に出展する作品作りを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議等において、委員等地域の方にも、例えば認知症についての理解を深めてもらえるよう研修等を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で出た意見等は職員に周知し、発展的なケアに結び付けていけるよう努力している	運営推進会議は家族や民生委員、町区長、福祉委員、市職員等の出席を得て2か月に1回開催し、利用者状況や活動報告等を行い意見交換をしています。コロナ禍では書面会議に変更し写真や情報をメンバーに送りアンケートで意見をもらい、7月から感染予防対策の上通常開催をしています。行事に対する評価をもらったり、外出支援についての意見を得て現在の取り組みを伝える等、ホームを知ってもらい運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員とも常時連携を計り、協力を得ながら、施設運営にあたっている。運営推進会議には市職員も参加していただいている	運営推進会議に市職員の出席がありアドバイスを得たり会議録を都度届け、わからないことがあれば直接電話等で聞いています。コロナ禍前は他職種連携会議や連絡協議会に管理者が出席し協力関係を築けるように努めています。メールで注意喚起や連絡事項が届き職員に周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の観察、声かけし状況をよく把握し、その方にあったケアを提供を行い、対応面で拘束なしを行っている。	年1回身体拘束についての研修を行い、2か月毎に身体拘束廃止委員会を開き、委員会前に職員に身体拘束に繋がる事例等を聞き委員会で検討し結果を職員に周知しています。基本的には玄関の施錠はせず外に行きたい方に寄り添い一緒に出ることもあります。言葉による行動の制止については委員会の議題にしたりミーティングで話し合いを繰り返しています。センサーの使用は家族の了承を得て利用者が安全に動けるよう使用し、必要性についても話し合っています。	

敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やニュース等を通じて、虐待について常に職員間で話し合っている。職員で声をかけ合い、交代しながらケアの提供に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護などを学び合い、利用者様一人一人の権利を守り、制度を活用出来る様家族との連携も図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学を本人・家族にしていただけ、納得されたうえで契約してもらえるよう努力している。重要事項等の改定時の際は、家族会等を開催したり、個々に面談を行い、納得していただいたうえで実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々な機会をとらえ、家族と面談する中で聞き出した情報は、幹部会や運営推進会議等で提案し、改善できる点は改善を行う等の努力を行っている	利用者からは日々の関わりの中で要望を聞いており、行きたい所についての要望が多く個別や全体での外出に繋げています。家族の意見は来訪時や運営推進会議、年に1回のアンケートや家族会等で聞いていますが、コロナ禍となり面会が困難になった時にも電話やライン通話等を通じて連絡を取り合い、写真を送ったり利用者の様子を伝え、地域の行事の状況などを教えてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例幹部会の他、必要に応じ臨時幹部会が開催されており、職場の意見については、地域密着型統括責任者を通じ会社上層部へ伝えたとともに、決定された内容について、職場の職員にフィードバックしている。	毎月職員ミーティングを行い業務改善や感染症・ヒヤリハット事例、全体のサービス内容、マニュアルの見直し、利用者の状況について話し合っています。欠席の職員には事前に意見を聞き、全職員が意見や提案を出せるようにしています。年に2回個人面談を行い普段言えない思い等を聞く機会があり、また法人の統括社員がホームに来訪し現場を見て意見等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的面接を行い、職員と職場について話し合い、少しでもやりがいのある職場を作るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の仕事や、やり方の進め方等を見ながら研修を受ける機会を見て進めている。		

敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に2回程度勉強会等の活動や、市内の職能団体との交流、県のグループホーム協議会等の活動を通じてサービスなどの質の向上に努める取り組みをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が困っている事や不安、要望等を聞きながら、家族様とよく相談し、また職員間で話し合い、安心を与える為に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行う前に、家族との面談の時間を設け、本人・家族の困りごとを傾聴し、プラン作成の参考としている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の訴えをうのみにせず、本人の能力の見極めを行いながら、本人がまず必要としているサービスは何であるかを見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることは積極的に担当してもらい、押し付けたり管理することなく、その人のしたいことできることなど、一緒に生活を営むという姿勢を大切に日々の業務にあたっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取りながら、看護師・職員・医療機関等と連携し本人と家族を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活リズムを大切にするとともに、一緒に知人やなじみの場所、自宅前に出かける等、なじみの関係を断ち切ることがないよう支援している	コロナ禍以前では、知人や近隣に住んでいた方等の来訪があり、居室やリビングの好み場所で過ごしてもらっています。家族と墓参りに行ったり、兄弟や親戚が集まる席に出席する等、馴染みの関係継続の支援をしていました。現在では手紙や年賀状のやり取りができるように支援したり、自宅周辺へのドライブなど、できる事を支援しています。	

敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間に入りコミュニケーションを取るなど、利用者が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、連絡し様子を伺いながら相談事があれば対応するなどの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話し合いながら、体調に変化があった時はどうしたいかなどその時々状況に応じたケアが提供出来る様努力している。	入居前に自宅や施設、病院等に出向いたり、ホームに見学に来てもらった時に面談を行い、本人や家族から意向を聞いています。また利用していた事業所からも情報を得て思いや意向の把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で得られた楽しんでいたり気付き等を記録に残すように取り組み、申し送りやミーティングで把握困難な利用者の思いも汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活に馴染んだ暮らし方、今まで受けてきたサービス等を理解し、出来るだけ本人のペースを維持することが出来る様支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日少しずつ利用者の方の状態は変化する中で、出来る事、出来ない事の見極めに努め、自立した生活を続けることができるよう、支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や必要な関係者と話し合い、3か月に1度職員とカンファレンスを行い介護計画を見直している。	本人や家族の意向、心身の状況をアセスメントし、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に見直ししており、見直しに当たっては、医師のアドバイスをもらい、再アセスメントを行い家族や訪問看護師、理学療法士の参加を得てサービス担当者会議を開いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録を記入する際はもちろんのこと、申し送りノートなど活用し切れ目が無く継続したケアができるようその人の状態や関わった事を話しながら情報を共有している。		

敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じて柔軟な対応やサービスを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が出来ることを見つけながら、地域の行事や近隣への買い物等の支援を継続し、その人らしい生活を続けることが出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医以外にも、家族が希望する医療機関への受診等も行い、安心できる生活を築くことが出来る様支援している。	かかりつけ医を継続できる事を入居時に説明しており、ホームの協力医へ変更する方も多くありますが希望するかかりつけ医への受診もホームで支援しています。24時間連携している訪問看護師による健康管理を週に1回受け、体調不良時等はビジネスチャットを利用して状況を詳細に報告でき指示やアドバイスをもらい対応しています。必要に応じて訪問歯科や訪問リハビリを利用する利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃から連絡を欠かさず、訪問看護ステーションと提携し、日常的な状態観察や、急変時にも速やかに対応出来る様定期的な訪問支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常の暮らしぶりを入院直後に伝えるとともに、2～3日毎に病室を訪問し、状態の変化を病院看護師に確認したり、本人と面談するなどの支援を行いながら、スムーズな退院を迎えることが出来る様、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	色々な機会を捉え、本人の状態や今後の家族のその都度の意向を確認しながら、穏やかな週末を迎えることが出来る様、早め早めの対応を心掛けている。	入居時にホームでの看取り支援についての経験等を踏まえて対応できる事等を説明しています。重度化した時には医師から家族に状況説明をもらい、本人や家族の思いを尊重し看取り支援の経験があります。医師や看護師からアドバイスや指示を受け、家族には面会を増やしてもらいコミュニケーションをとり協力も得て思いにそった支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に避難訓練をおこなったり、AEDの講習会に参加するなど、緊急時にも落ち着いて利用者に関わる事が出来る様努力している。		

敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修に参加し情報収集を行い、定期的に避難訓練を行う他に、運営推進会議等でも協力要請の依頼をするなど安全に避難出来る様努力している。	年に2回夜間の火災を想定し行う訓練の内1回は消防署立ち合いの下、通報や初期消火、避難誘導を実施し、地域の福祉委員の参加も得ています。水害に対しても避難計画を立てたり、原子力災害時の受け入れ先と連携し災害に備えています。また3日分の水や食料等の備蓄をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命をお預かりしているという認識を強く持ち、また人生の先輩であるという尊厳の気持ちを常に持ち対応することが出来る様日常業務の中で指導、実践を行っている。	接遇マナーの研修をはじめ認知症や虐待防止についての研修を行い、利用者の尊厳保持や尊重した対応について職員は学んでいます。人生の先輩として丁寧な対応を基本に、常に視線を合わせてわかりやすい言葉での関わりを心がけています。不適切な対応があれば管理者が個別に注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいのか何が出来るのか、本人の訴えや行動の中から、本人の要望をくみ取り、寄り添い、本人が自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さぬよう、本人のペースに合わせ、本人らしく過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた対応をしている。ヘアカット等は月に1回程度行っている。起床時に化粧の習慣がある利用者様にはセッティングし、化粧してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストを聞き取ったメニューにしたり外食したり、一緒に買い物に出かけたりしながら、一人一人が食事時間を楽しみにすることが出来る様支援している	昼食は法人の厨房で作られた物が届き、朝夕食は食材が届きホームで手作りし、夕食は職員も一緒に食べています。基本的には法人から食材が届きますが利用者と一緒に足りない物を買に行き、利用者にも野菜の下拵えや混ぜる等のできる事に携わってもらっています。寿司やピザ等を取ったり、かき氷やアイスクリームなどの手作りおやつや誕生日にはケーキを作る等、食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を個人ファイルに記録し、状態確認を行っている。必要に応じてゼリーやとろみなど個別に対応する等の支援もしている		

敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には必ず職員が付いて歯磨きしている。スポンジや口腔ウェッティーなどを使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努めるとともに、定時、随時のトイレ誘導を行い、気持ちよく過ごすことが出来る様配慮している	日々の記録から排泄パターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。失敗のある時は少しずつタイミングを早くし失敗が少なくなる等改善した方もいます。おむつの研修がありパッドの種類や個々に合った物の選択について学び、日々の申し送りやミーティング等で話し合いながら自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気の良い日は、散歩に出かける。天気の悪い日は体操や館内を職員と一緒に歩く等、体を動かす機会を積極的に設けるとともに、便秘予防が出来る献立を考え提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているものの入浴順や時間は一人一人の希望で選ぶことが出来る様支援している	入浴は週に2回を目処に午前中から声を掛け支援し、状況によっては午後の時間帯で入ってもらっています。希望があれば回数を増やしたり同性介助で支援し、拒否があれば時間や日を変え無理なく入ってもらう等、個々の利用者に合わせて入浴の支援をしています。入浴剤を使用したりゆず湯や菖蒲湯の季節湯を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の気持ちに応じて自室に戻ったり、ホールに出てきたり等、自由な時間を過ごすことが出来る様個別に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携や、訪問看護師の助言を参考にしながら、薬の効能や副作用についても勉強する時間を設け、各利用者の状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、気候を意識し本人の好みや楽しみごとを把握し、色々な機会の中で、楽しみを見つけることが出来る様日々のレクリエーション等に取り組み気分転換を図っている		



敦賀ケアセンターかくだ グループホームあずさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は随時行っており、町内の行事ごとにも積極的に参加させていただいている。他にも月に1度家族と一緒に出かけられるよう連絡を取り合っている。	日々の散歩に出かけたり花の水やり等で日常的に外に出る他、時にはホーム前に椅子やテーブルを置いてお茶を飲むなど外気浴も楽しんでます。コロナ禍前にはショッピングモールへの外出や外出行事もありましたが、現在はドライブで桜を観に行く等、できる範囲での支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じ、買い物に行った時には本人にお金を持たせ支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族に電話が掛けられるよう支援している。また、友人や家族との手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて冷暖房を使用するが、外気を取り込み自然な太陽からの採光を心掛けている。共用空間については、季節を感じられるような飾り付けをし、転倒を予防しみんなが居心地のよい空間になるよう努めている。	共有空間に花を飾ったり家庭的な家具を置き温かい雰囲気があり、七夕飾りやクリスマスツリー等季節に合わせた飾りつけもしています。毎日換気や掃除を行い清潔を保ち、冬季は加湿器を置き湿度管理にも配慮し快適に過ごせるよう支援し、行事等に合わせてテーブルの配置を変えています。また畳スペースがあり寛ぐ方もおり、思い思いに過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が思い思いの椅子に座り、畳に間で足を伸ばしたり、自由に昼寝が出来る等の支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人や家族と相談しながら本人がゆったりと過ごす時間を持つことが出来る様、家具等の配置を行っている。自宅にあるなじみの家具等も運び入れてもらっている	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように伝え、ダンスやテレビ、棚、鏡台など馴染みの物を持参し本人と家族と相談しながら配置を決めています。写真やぬいぐるみを飾ったり本を持参する方、自作の川柳を掲示している方がいる等、その人らしい居室となっています。掃除や換気は毎日行い、生活習慣や状況に応じて畳を敷き布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるよう目印になるものを掲示したり、出来るだけなじんだ動線を変えない様家具等の配置を行い、自立した時間の確保に努めている		